

2025年11月21日 総合教育会議

『長期欠席(不登校)』の早期予測と対策

松浦賢長(教育委員・福岡県立大学)

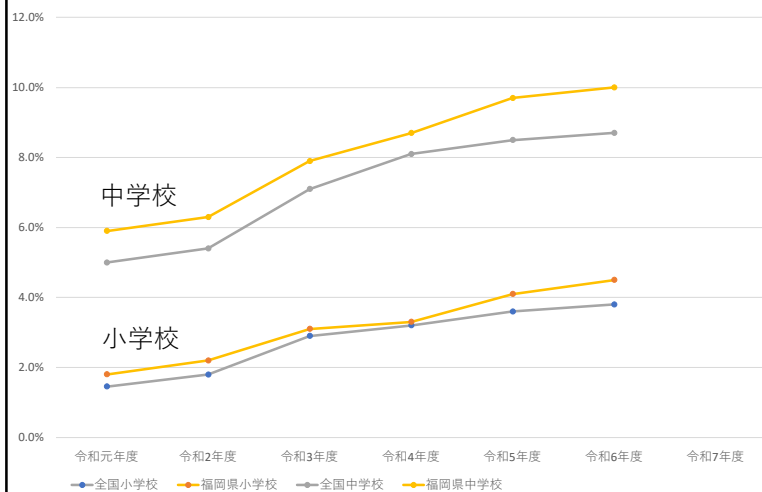
1

不登校を確実に減少させる取組み①

1. 協力校とともに試行してきました…県域46校(約3万人)
2. 中学校区単位(14中学校区)で関与していただいています
 1. 小学生の不登校が増えている ⇒ 中学校の不登校に影響する
 2. 改善率は小学生が約40%, 中学生が約10% ⇒ 小学校対策から推進
3. 小規模校から大規模校まで含みます
4. 小・中学校から義務教育学校までをカバーしています
5. 感覚ではなく根拠(データ)をもとにした対策を立案・実施します
6. データはどこでも入手可能であり、すでに把握されているものにします
7. そのために欠席の数に着目します
8. 文部科学省: 欠席数が30日以上ものを「長期欠席」と定義しています

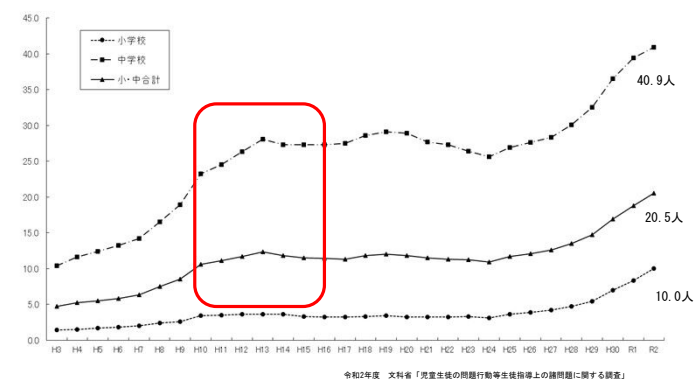
2

長期欠席率の推移



3

小学校・中学校 不登校児童生徒割合の推移 (全国: 1000人あたり)



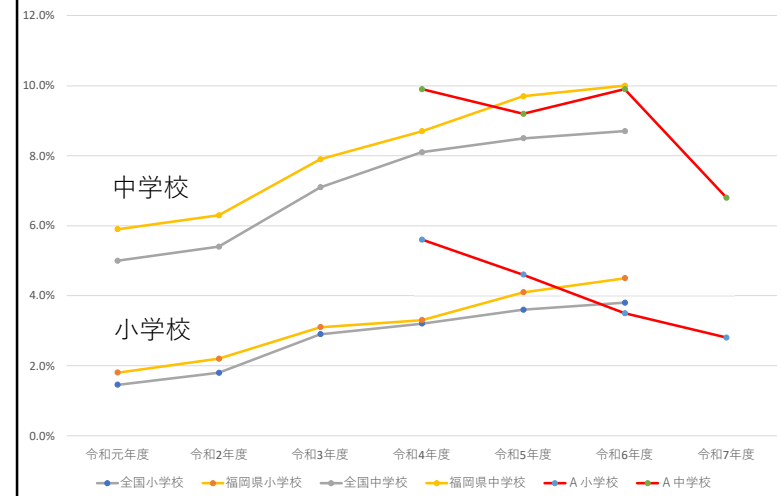
4

不登校を確実に減少させる取組み②

1. 年に2回のデータ(欠席日数)把握(6月末,10月末)を行う
2. すでに長期欠席(30日以上)確定の状態にある児童生徒を把握する
3. 各時点で今後年度内に長期欠席の状態になる児童生徒を予測する
4. 長期欠席が予測される児童生徒を便宜上「グレーゾーン」と表記する
5. 県の重点事業を受け、予測シートを開発・配布している
6. 長期欠席の児童生徒には行動変容(登校せず⇒登校)のための会議を行う
7. **グレーゾーンの児童生徒には行動維持(登校⇒登校)のための校内会議を行う**
8. **グレーゾーン会議では行動維持のために学校が何を変えるかを決めていく**

5

長期欠席率の推移



6

B地点(居場所)の選択肢

1. かつて、B地点は在籍校の在籍クラスだけでした(それを出席という)
2. 登校拒否の時代、校内の保健室や別室という選択肢が用意されました
3. また、学校外では適応指導教室(教育委員会の組織)が整備されました
4. その後学校外で多くのフリースクールが設置されてきました(第一の波)
5. さらに学校外で教育支援センターが設置されてきました(第二の波)
6. 最近学校外の公的施設や公民館に居場所の設置が始まりました(第三の波)
7. 居場所のタイプとしては「自由」「体験」「学習」があります
8. 混在型(登校・不登校、発達段階、小学生・中学生)は難しいとされます

7

2025年11月21日 総合教育会議

ありがとうございました

松浦賢長(教育委員・福岡県立大学)

8